

いはらき



保育通信

No. 114

平成28年 8 月31日発行



茨城県保育協議会／茨城県民間保
育協議会／茨城県社会福祉協議会

目 次

特集「多様性を求められる法人の課題とこれから」	1
平成28年職員研修	2
第57回関東ブロック保育研究大会	4
保育士研修	7
ブロック活動報告	8
時代をつなぐ	10
新設保育園紹介	12
みんなの広場	14

茨城県保育協議会

〒310-0651 水戸市千波町1918

茨城県総合福祉会館 2 F 茨城県社会福祉協議会内

TEL 029-243-4034 (直通) FAX 029-241-1434

<http://www.hokyo-ibaraki.jp/>



特集

「多様性を求められる 法人の課題とこれから」

— 地域に根ざした園の役わりと姉妹園の連携 —

つくばブロック

富士見ヶ丘認定こども園

園長 川 又 朋 子

福祉従事者としての道を歩んできて、十年が過ぎた頃、自法人内で長年に渡り勤務して頂いた職員の定年退職、同法人内で運営している障害者支援施設の入居者さんと永遠の別れ、過疎化に伴う急激な人口減など、大きな経験を通じ、改めて福祉という道の厳しさと、人と人の繋がりへの尊さをしみじみ感じました。

そんな時、福祉従事者としてあるべき姿や自分の役割と目標をそれぞれを明確にする必要性を強く感じました。そして、その為の環境づくりこそが、保育者としてスキルアップに繋がり、組織強化、敷いては保育という職業評価に繋がるのではないかと思うようになりました。

自法人は、現在県内に保育園・認定こども園・障害者支援施設を運営しています。県内とはいえ、各園の距離は一番近い場所でも約九十キロと離れている為、法人理念の共通理解、こども達同士の交流と地域との関わり、そして各施設職員間の良好な関係性を維持する為に、次に挙げる交流会・研修会・会議を年間通じて実施しています。

こども達同士は年中・年長を中心に各園に出向き、さまざまな遊びを通じて交流を深めています。普段会

えない友が出来ることで、再会した時の喜びや互いの成長を確かめ合う姿は、何とも言えないものがあります。

全職員が法人理念の共通理解を図る為、年三回各園に集まり研修会を実施しています。

各園での課題について担当園がプレゼンし、グループワークを実施しています。また、年間行事には各園から数名ずつ参加し、行事内容の目的や保育目標に沿った内容になっているか、反省・評価表を記入し全園回覧をします。

園長・主任会議は月に一度本園で実施しており、各事業(学童・支援・栄養士)会議は三ヶ月に一度、本園で実施することにより、情報交換を含め各園での活動や地域色に関心をもってもらいたいと考えています。

このような会議や研修を重ねていくことで、全職員が法人理念の共通理解と、各園の特色や課題と向き合い、より良い保育を実施できるよう努めています。

自法人の考える法人・組織強化とは、園数の多さや、国の方針に左右されることなく、福祉道を選び歩いている職員一人ひとりが、自信とプライドを持って、こども達、保護者、地域の方々身近な存在であり、安心・信頼できる居場所であり続けられるには何が必要であり、どうあるべきかを念頭に日々務めていくことだと考えます。



〈三園で楽しい給食〉



〈姉妹園での合同保育〉

平成二十八年 職員研修

新任研修に参加して

鹿嶋神栖ブロック

認定こども園大野めぐみ保育園
保育教諭 中西 瑠美

私は新任研修に参加し、新たな人生が始まるのだと実感しました。二日間の研修を通して、社会人としての心構えや、当たり前のことを当たり前にやることの大切さを学びました。研修一日目では、講師の皆川洋子先生に社会人として必要な社会人基礎力について多くのことを教えて頂きました。基本的な動作を始め、立居振舞、表情の大切さ、電話対応等、これから社会人としての第一歩を踏み出す私にとって、勉強になることばかりでした。研修初日で印象に残った言葉があります。それは、「働く環境は自分で作る」という言葉です。例えば、自分の机を整理整頓することも環境を作るということに繋がると思えます。働く環境を自分で作っていくことで、それが仕事に対する向上心にも繋がります、積極的に行動を起こすことのできる原動力

になるのだと感じました。また、子どもにとっても「環境」はとても大切ですが、働く環境を自分で作っていくからこそ、子ども達にも伸び伸びと過ごせる環境を提供できるのだと思いました。

二日目の研修では、園長先生方の講義を聞かせて頂きました。大学で学んだ知識と照らし合わせながら聞くことが出来ました。書類の書き方、保護者対応、茨城県の保育に関する現状等、現場に入るうえでとても大切なことを沢山学ぶことが出来ました。子どもと関わる職業ということは、同時に保護者とも関わっていきませんが、保護者と十分にコミュニケーションを取っていくことがいかに大切かを感じ、保護者と保育者の相互理解があるからこそその職業なのだと思います。園長先生方の講義を聞かせて頂き感じたことは、子どもと関わるということできる保育士は幸せであるということです。人が生きていく過程で最も大切な時期を共に過ごせることに誇りを持たなければならぬと思います。個々の子どもの特性を理解し、受け止めてあげられる保育者になりたいです。また、

人前に立つ職業であることを自覚し責任を持って行動していきたいと思っています。これからの人生を豊かにしていくために、保育者として、人として成長できるように頑張っていきたいと思っています。



〈みんなで一緒、おいしいね〉



〈重いぞ、力を合わせて!〉



〈今日のおはなし な〜に?〉

県央ブロック
ふじ保育園
保育士 宮澤 麻実

二月に行われた新人研修に参加させて頂いたとき、社会人としての基本的マナー・保育者としての在り方を深めることができました。この研修に参加し、保育士とは子ども・保護者・他の保育者など多くの人の「信頼関係」が重要とされる職業だと改めて感じました。子どもへの関わりでは、一人ひとりの発達に合わせ個々を尊重しながら、さらなるステップアップを目指し支援していく大切さを学びました。その中でも、私が保育に対する



〈たくさん食べたね〉

姿勢として大切にしていきたいと感じたのは「間違えたら笑ってごまかさず保育者も子どもに謝る」ということです。

子どもと同じ目線になり物事を考えることで、子どもの気持ちに寄り添いながらより良い保育をしていけると思います。間違えたら謝る、楽しい時は一緒に楽しむ、伝えることは真剣に伝える、保育者が正面から向き合っていくことを、子どもとの心の距離を縮めるための第一歩とし、一人ひとりと関わる時間を大切にしていきたいです。

保護者対応では、送迎時の挨拶を笑顔で気持ちよく交わすことに加

え、子どもの一日の様子を伝えます。その際、その子どもならではのエピソードを加えることを心掛けていきたいと思っています。

また、連絡帳では文章で子どもの様子が伝わるように心掛ける、失礼がないような言葉を選ぶなど気を付けるべきことがあると強く感じました。直接ノートに書く前に下書きしたものを先輩保育士に確認していただき清書することで、間違いがないようにしていきたいと思っています。

他の保育者とは、同じ目標に向かい保育をしていけるよう、園の方針を理解しこまめに共通理解を図り、分からないことは指導をいただくことで自分の力に変えていきたいと思っています。その姿勢をもつことで信頼関係が生まれるのだと感じました。

保育士として働き始め三カ月が経とうとしています。毎日が発見・学びの連続で、自分の未熟さを痛感することもあります。研修や先輩方からの学びを生かし、子どもと共に成長していきたいです。



平成28年度研修予定

- 食育研修会 H28. 8. 31(水)
- 看護職員・保育士研修会 H28. 11. 22(火)
- 中堅保育士研修会 H28. 10. 19(水)

今年度掲載予定のブロック

	115号 (12月)	116号 (3月)
ブ ロ ッ ク 便 り	水 郡 ひ た ち な か 県 央	つ く ば 筑 西 県 西
み ん な の ひ ろ ば	稲 北 い し お か い な ほ	水 郡 土 浦 常 総

第58回 関東ブロック 保育研究大会

茨城大会

すべての人が、子どもと子育てに
関わりをもつ社会の実現をめざして

平成29年
7月6日(木)～7日(金)

●会場：茨城県水戸市 茨城県立県民文化センター・市内ホテル

主催：茨城県、茨城県社会福祉協議会、茨城県保育協議会、関東ブロック各都県指定都市
関東ブロック各都県指定都市福祉協議会、関東ブロック保育協議会

第57回 関東ブロック保育研究大会 日程

平成28年 7 月 7 日(木)～ 7 月 8 日(金)

全体会 湯本富士屋ホテルグランドコンベンションホール

箱根湯本256- 1 TEL0460-85-6111

- ・第1分科会：「新たな時代の保育実践」～すべての子どもにむけて～
- ・第2分科会：「配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて」
- ・第3分科会：「保育者の資質向上を図る」
- ・第4分科会：「地域の子育て家庭への支援の充実に向けて」
- ・第5分科会：「家庭や地域との連携による食育の推進」
- ・第6分科会：「子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク」
- ・第7分科会：「保育の社会化にむけて」
- ・第8分科会：「公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割」
- ・特別分科会：「保育所等の防災対策」「神奈川県地震対策（箱根の状況と合わせて）」

関東ブロック大会に 参加して

すみれ第二保育園 顧問

茨城県保育協議会 理事

石 橋 豊 美

去る七月七日(木)、八日(金)の二日間、神奈川の当番で箱根町湯本をメイン会場に、関東ブロック保育研究大会が開かれました。

今回は茨城での大会が予定されており、県保協の清水敏孝会長が大会委員会の委員長、私が実行委員会の委員長ということで準備が進んでいます。大会委員・実行委員は来年に備えて今年の大会を体験し、また来年のアピールをすべく、こぞって参加しました。そのほかにも大勢の方にご協力いただき、茨城から百名近い参加がありました。

第一日目、全体会。オープニング、開会式に続き、厚生労働省の行政説明、チーミーのミニライブなどが行われ、最後に我々の出番「来年の開催地挨拶」のプログラム。

まず清水会長がウィットに溢れたトークで会場を湧かせ、「ハッスル黄門」、「みとちゃん」と一緒に委員全員が揃いのポロシャツで案内の横

断幕を持って登壇しました。「ハッスル黄門」、「みとちゃん」は大人気で被写体になっていたもので、印象付けは成功したかと思えます。着ぐるみの中の方は暑くて不自由で大変でしたが……。御苦勞様でした。」

第二日目は、九つの分科会に分かれての研修。茨城では、第二分科会で瓜連保育園、第六分科会で大宮聖慈保育園が発表を担当しました。

今回、大会運営に視点を置いて参加して『大会を成功させるためには、何より担当者のチームワークと、参加者への気配りが大切である』ことを実感し、今後の具体的な検討事項がピックアップできました。

第五十八回関東ブロック保育研究大会は来年七月六日(木)、七日(金)、水戸市の県民文化センターをメイン会場に開催予定。地元の大変です。皆様、ぜひご参加ください。





〈熱心に講演を聞く参加者のみなさん〉



〈「ハッスル黄門」と「みとちゃん」でPR〉

関東ブロック大会に 参加して

土浦ブロック

土浦市立神立保育所

副所長 永井博恵

神奈川県箱根町を会場にして行われた、第五十七回関東ブロック保育研究大会に参加させていただきました。

一日目の記念講演では「会に行ける歌のお兄さん」として活躍中のチーミーのウキウキミニライブが行なわれました。テンポの良い歌やパフォーマンスに会場が一体となり、まるで目の前に子ども達がいるかのように楽しんでしまいました。

子ども向けの楽曲が多い中で「大人がキラキラしている事」が子どもを輝かせる事になる。また「それいいね」は若い人が使う言葉という意識があり、あまり気に止める事はなかったのですが「いいね」と褒める事はやる気を持たせ自信になる事など歌に込められたメッセージを聞いて私の立場上子ども達はもちろんの事、若い職員、保護者、身近な人に対して素直な心で「いいね」と言葉に出して褒める事の大切さに改めて

気がきました。

二日目、私は今まで行ってきた保育や今後の課題を踏まえて「配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて」を選択させていただきました。三つの研究内容どれを取っても自分自身経験してきた事であり、それに対しての取り組み内容は、とても勉強になりました。それらの研究内容を踏まえた上で横須賀市療育支援センター所長の広瀬宏之先生の講話を聞いてまとめとなりました。

まず「医療」と「療育」は似て非なるものであり、「医療」が原因を見つけて治療するのに対して「療育」のように、原因のよく分からないものに對しては「医療」は必ずしも役に立つとは限らないとの事でした。また「療育」のゴールが就学前ではなく一生の事と捉えてその子の特性を理解し保護者に正しく伝え、関係機関と連携を取りながら対応していくことが重要な事となります。配慮を必要とする子への対応や家庭への支援は、保育の原点となる事が分かりました。

この研修で学んだ事を今後の保育に生かしていきたいと思っています。



次期開催県として

いしおかブロック

国分台ふたば保育園

園長 柳澤克彦

来年度、第五十八回関東ブロック保育研究大会副実行委員長を仰せつかっており、次年度茨城大会の準備としまして、会場の様子や茨城大会の次期開催地のPRを兼ねて参加をさせていただきます。

茨城県からも、九十三名の多くの先生方が参加されました。会場について、まずはじめに大会前の関東ブロック運営委員会に茨保協の事務局と執行部の先生方が参加され、各県の代表の先生方による前回の静岡大会の事業報告・会計報告があり、今回の大会宣言の案について決議され、開会式に移りました。

オープニングでは、神奈川県知事（副知事中島氏）による神奈川県の保育事業について待機児童対策、子育て支援について講話があり、県内の子育て支援に関しての取り組み、現状について、今後地域に根づく保育所に益々期待したいという話がありました。次にオープニング②とし

て、落語家の柳家三三さんの高座がありました。地元小田原市出身とあって、地元になんだ事柄も含め、独特な語りで観客を魅了していました。

開会式では、参加者全員で児童憲章を朗読し、改めて子どもたちを取り巻く環境がこの憲章により、守られていることを全員で認識する事が出来ました。

まず、第一日目は、厚生労働省から、保育行政の動向と今後の課題についての説明がありました。参加者のほとんどが保育士の先生方で、保育行政についての話は少し現場の方には難しいと思われましたが、待機児童問題や保育士不足問題など、現状にあった問題提起もなされ、学ぶ内容も多くありました。基調講演では、雰囲気、がらりと変わり、全国各地で活躍されているパフォーマーのチーミーによる記念講演が行われました。参加者の先生方もチーミーの誘導で全員がスタンディングでミニライブのように会場が熱気に包まれ楽しい時間を過ごさせていただきました。

いよいよ、次期開催地茨城大会のPRの時間になり、まずは、茨城県PVを視聴していただき、茨城県公認キャラ「ハッスル黄門」と水戸市公認キャラ「みとちゃん」と茨城大会実行委員の三十名の先生方と共に

ステージ上で大会横断幕を掲げ、大会委員長清水敏孝先生より、茨城大会のPRをしていただきました。魅力度ランキング最下位からの伸びしろはナンバー一なので、これからいろいろなものの可能性を秘めている茨城に是非、お越し下さるようPRしていただきました。また、「ハッスル黄門とみとちゃん」は、大人気でした。

第二日目は、八分科会に分かれ、それぞれの会場にて分科会に参加して会場ごとの解散となりました。今回私は、次回茨城大会に向けて会場のレイアウト、スタッフの動き、参加者との関わりなど、茨城会場で活用出来そうなどころを拝見させていただきました。受付時の荷物の受け入れの工夫や受け渡しの掲示のアイデア、多くの参加者を誘導する動線の配慮など、学ぶ点が多く勉強になりました。来年度の茨城大会に向けて、今回の神奈川大会や昨年度も参加させていただいた静岡大会の良いところも取り入れ、茨城大会に活かして行きたいと思っています。

茨城の全ブロックの皆さまのご協力をいただき、平成二十九年年度の関東ブロック茨城大会を成功させて行きたいと思しますので、どうぞその際には、多くの方々のご参加とご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

発表者として参加して

水郡ブロック

瓜連保育園

保育士 川 又 美紗都

この度、第二分科会の発表者として参加させて頂きました。多くの先生方の前で話をするということに戸惑いと不安がありましたが、助言者の先生、幹事や議長の先生、他の園の発表の方、スタッフの方々にたくさん助けて頂き、また質問も受け、有意義な時を過ごすことが出来ました。

「配慮を必要とする子どもや家庭の支援に向けて」という議題で三つの発表がありました。やはりどの園でも保護者への伝え方が難しいと感じていることがわかりました。それでも、配慮を必要とする子どもが困らないよう、生活が少しでも改善されるように、私たち保育士は、しっかりとその子の行動を分析・理解し対応しながら、保護者のニーズを鑑み、同じ目標がもてるよう繰り返し伝え続けることが改めて大切だと感じました。

助言者の広瀬先生は、支援の一つのゴールとして「特性の理解とそれに合った環境調整」ということをあ

げておられましたが、私たちの保育園でも、子どもの活動に合わせて保育士が環境を整え、個々に合わせた言葉かけや働きかけをすることを大切に保育しているので、とても共感することができました。

「発達障害Ⅱ発達のでこぼこ環境とのミスマッチ」とも話され、全体的な子どもたちに対して、環境を整える事や一人ひとりのペースや関心に合わせるこの大切さを改めて強く感じました。

外部との様々なつながりも大事だというお話からは、医療機関や専門機関、行政機関などと情報を共有すること、多方向からのサポートや、保育園を卒園してからも継続した支援が受けられる事も分かりました。

保育研究大会においては、他にも厚生労働省の方による行政説明や落語、チーミーさんのライブもあり、笑って癒されたり、じっくり考えさせられたりと盛りだくさんの一日でした。また、他園の先生方と話をすることもでき、大いに刺激を受けました。

このような貴重な機会をいただいたことを感謝し、今後も自身の保育の向上に努めてまいります。

保育士研修

平成二十八年七月十二日

「保育士のメンタルケアについて」

水郡ブロック

ごだい保育園

保育士 飯塚 幸子



今回の講演内容は、保育士として現場で働く自分自身のこと・日々の保育の中で大切にしていきたいことだったので、より良い保育に向けて学ぶ機会となりました。

一つ目は、私たち保育士がストレスを溜め込まず過ごしていけるようなお話を頂きました。子ども達により良い保育をするためには、私たち自身の心も身体も健康でなければいけないことを改めて実感させられました。又、先生による実践を通してのストレス軽減の技法も試していきたいと思いました。

二つ目は、日頃の保育や子どもとの関わりを通して心がけていることではありますが、日々の忙しさに追われ気味だった自分自身の姿を反省しました。先生のお言葉一言一言に

子どもを心から思う背景を感じ取ることが出来ました。私自身、目の前の子どもにとつて今、必要な手立ては何か、どのような言葉を投げかけるべきなのか改めてじっくりと考ええる機会となりました。

その中でも、「見ると観る」が印象深い内容でした。参考DVDによる事例では、見るということは目に物が見える働きであつて、その場面を見ているので、子どもに対しての言葉がけもしやすくなります。観るということは目に見えない物(内面)を見ようとする働きであり、その子の願いを読み取るということです。

見ると観る、思いを受け止める、自己肯定感を育む言葉のかけ方(否定をしない、私言葉での話し方)この三つを自分自身の目標として子ども達が毎日、楽しく生き生きと過ごせるよう関わっていきたいと思います。

県北ブロック

つくしんぼ保育園

保育士 猪股

彩



私は、一年十ヶ月間パート職員として保育に携わり、四月より正規職

員として四歳児クラスの担任をしています。保育協議会の研修には初めて参加させて頂きました。

「保育士のメンタルケア」という事で、チェックリストを活用しながら自分のストレスを把握し、それを代理顔表象化法、黄金律法等を用いてストレス源を消していきました。

講義だけではなく実践しながら行い、とても分かりやすかったです。現に自分の体調面がすぐれない時や、イライラしている時、人に接する態度や話し方が思わしくなかったと事後に反省する事もあります。ストレスを無くす事は、幸福になるために不可欠で、情緒不安定やうつ病にかかりにくくなり、又免疫を高め、病気になるにくい体づくりの為に重要であるという事を、科学的なつながりや脳の働きから学びました。ストレスを溜めないようコントロールしていく事で、笑顔で子ども達と過ごしていきたいと思います。

「自己肯定感を育む保育」のお話では、自己肯定感は思春期になってから効果判断が出来、日本の高校生は、三十六、一%しか育っていないという話に正直ショックを受けました。自己肯定感は、人との関係において育つもの育てられるもので、自己信頼と他者信頼を合わせ育っていきます。「しんちゃんの大乱暴」とい

うDVDの中で、言葉がまだ上手く話せず、友だちとのやりとりが出来ない男の子の様子が写し出されていました。友達の髪を引っぱったり、物をとりかえしたり、叩いたりする様子は、実際保育中でも見られる光景だと思い、自分が現場に立っていたらどうしたか考えました。「本当は友達と仲良く遊びたいのではないか。」というその子の行動の意味や本当の願いを理解し、保育者が仲立ちとなる事の大切さを改めて感じました。「困った子」ではなく「困っている子」と見て、なぜそうしたのか考える事、保育者の見方、関わり方で子どもの育ちが変わっていくという事の責任の大きさを感じました。

自分の考えや保育を思い浮かべ、振り返りながらお話を聞き、全体に目を配りながらも個々をしっかりと見て、明日からの保育に生かしていきたいと思いました。今後もこのような研修の機会があれば、積極的に参加していきたいと思います。



ブロック活動報告

取手ブロック

保育協議会

会長 廣瀬 智子

(取手市立久賀保育所)

取手ブロックは取手市、守谷市の公立九施設、私立十八施設で構成されています。子ども・子育て新制度になり、保育所の形が変わって行く中、保育のますますの充実を図るために学んでいかなければならないと実感して居ります。

今年度の活動は次の通りです。

◎施設長・主任会議(一回)

一年の活動方針を話し合います。

◎主任会議(七回)

「子どもの健やかな成長を願って保護者支援のあり方を考える」をテーマに研究しています。

◎特別研究会(月一回程)

「親に伝わる情報発信―お便りの出し方を考える」をテーマに研修する中で、保育士に向けてお便りの出し方の小冊子を各園に配布し研修をしています。

◎給食研究会(五回)

今年は人気メニューを出し合い、調理実習し、給食献立の充実を図ります。

◎講演会(一回)

「働くことの喜びはみんなディズニーで教わった」を加賀谷克美氏を講師に迎えて仕事に取り組む姿勢、熱意をお話いただきました。

◎施設長・給食担当者視察研修

今年は十二月に埼玉の認定こども園に視察予定です。

これらの活動を通して、保育の質の向上に努めたいと思います。



県北ブロック

保育協議会

会長 菊地 正子

(日立市くじ保育園)

県北ブロックは、北茨城市、高萩市、日立市の公立十三(認定こども園二)私立十三(認定こども園七)の計二十六施設で構成されているブロックです。

昨年度の事業内容について報告させていただきます。

一、施設長部会

○施設長会

・北茨城、高萩、日立市の保育関係行政担当者との研修会及び懇親会

「認定こども園の現状について」

「子ども子育て支援法における各種補助金について」

○民間施設長会

「マイナンバー制度とは何か」
概要と取るべき対応について

講師 根本明人氏(税理士)

○公立施設長会

「食品衛生について」
「保育園での感染症について」

二、保育士部会

○主任保育士研究会

「保護者支援を考える」
「保育園での支援のあり方を探る」
二年間の研究をまとめ発表を行いました。

○保育研究委員会

「遊びを通して子どもの心と体を育む」二歳児の遊びを中心として考える」

茨城キリスト大学大畠孝子先生の助言をいただきながら研究を進めており今年度、発表です。

○担当年齢研修会

各年齢別に講師を招いての勉強会や実技講習を実施。

○講演会

「手遊び・リズム遊び」
ミシル&りょうた

ユーモアを交えながらの実技指導は、笑いが絶えない楽しい研修となりました。

三、給食部会

○講話及び調理実習(年三回)

「茨城の伝統料理」
「子どもたちの偏食原因」
「子どもの嫌う理由と対策」

○講演会

「感染症対策・アレルギー対策・衛生管理について」
講師 片見真由美氏
(日立保健所)

四、全体講演会



〈鉄道ものまねをする立川氏〉

「歌とトークショー」

大 島 花 子 氏

「鉄道ものまね」

立 川 真 司 氏

歌手の大島花子さんは、坂本九さんのご長女で、命の貴さや命のつながりをテーマに活動しています。ギターの生演奏と優しい唄声に心温まり、震災から五年、命の貴さや何気ない日常生活がいかにありがたいものか改めて感じた講演会となりました。

子ども子育て支援新制度がスタートし一年が経ちました。様々な課題も見え、今後さらに制度が整備されていくものと思われまます。とりわけ保育士の確保が難しいという厳しい現状ではありますが、保育の質の向上を目指し会員相互の交流を図りながら充実したブロック活動に取り組んでいきたいと思ひます。



〈心に届く唄声〉

稲北ブロック 保育協議会

会長 田 中 文 子
(あすなる保育園)

稲北ブロックは、牛久市、龍ヶ崎市、稲敷市、稲敷郡、北相馬郡の五つの郡市で構成され、三十五施設、四百九十名の会員で活動しています。

昨年度は、二回の講演会を行ない各々に、永井由利子先生「子どもと環境について」と汐見稔幸先生「今求められる保育士の役割」についてのお話を伺い、出席した一人ひとりが自分たちの保育を振り返る時間となりました。またケロポンズのコン

サートや楽器遊びなど実際に保育で役立つ講習会も行ないました。

この他に一年を通して主任保育士研究会では「子どもを取り巻く環境の変化に応じた支援の在り方」というテーマで主任保育士としての役割や保護者支援の在り方について考え話し合いを重ねました。保育士研究会においても三つのグループ毎に子ども、保護者、絵本とそれぞれにテーマを決めて研究を重ねています。乳児研究会では「発達を促すための働きかけ」を実践するために手作りのおもちゃについて研究をしました。また給食研究会では、ヨガで疲れた体をほぐし食中毒予防などについての勉強をしました。

二十八年度の活動がはじまり、四月の定期総会後には、中川ひろたかさんをお迎えしてのコンサートがあり、年度末、年度初めの慌ただしさの疲れも吹き飛ばす楽しいコンサートとなりました。

主任保育士研究会、保育士研究会、乳児研究会、給食研究会もスタートし、流通経済大学の米原先生に助言をいただきながら進めていくと考えています。

全体では、先日六月十八日には歌遊びユニット「カツリキ」のお二人を迎えての実技講習会を行ないました。現役で保育の現場に立つお二人

の楽しいパフォーマンスに参加者も親近感がわいたようで会場も大いに盛り上がり上がっていました。参加してくれた人たちも「すぐに日々の保育や運動会で子どもたちと楽しみたい」と話していました。

今後は、「コーチング」についての講習会を行なう予定ですが、所長（園長）・主任の視察研修や講習会を通して乳幼児期の教育について考える一年になればと思います。

保育という仕事にかかわる誰もが、全ての子どもたちの幸せを願って、より良い方向へと進んでいくための、ブロック活動となるよう知恵を出し合っていきたいと考えています。



〈中川さんと一緒に〉

老舗保育園からのメッセージ

時代をつなぐ

保育協議会の老舗といわれる概ね昭和30～40年代に開園し現在に至る園を紹介していきます。

地域とともに育つ

鹿嶋神栖ブロック

社会福祉法人 萬徳寺保育園

幼保連携型認定こども園

萬徳寺保育園

園長 岩 堀 詠 子

萬徳寺保育園は、県の最南東端に位置する神栖市に、昭和三十三年創立いたしました。農業と漁業が産業の中心であった当時の神栖市は、昭和三十五年（一九六〇年）に始まった鹿島開発によって、鉄鋼・石油を中心とした重化学コンビナートの街として発展して参りました。田んぼに囲まれていた保育園が、今では商業地域の中心地となったことに驚いております。

さて、萬徳寺保育園の始まりは、昭和十五年に真言宗大覚寺派萬徳寺住職であった祖父岩堀法嚴が、有志と相図り戦時中の食糧増産のために、全国に先がけて「共同炊事」を行い、その際、農家の皆さんが安心して農作業に精進できるようにお堂を託児所として提供したことに始まります。それにより東久邇宮妃殿下のご来臨を賜りました。その法統を継ぎ、中学校教諭として奉職していた父法道は、宗祖弘法大師が日本

で初めて開いた庶民の為の私立学校「綜藝種智院」における幼童訓育の意を体して、昭和三十三年六月季節保育所を開設しました。昭和三十八年には「萬徳寺保育園」として知事認可を得て、その後定員増を重ね現在に至っています。

今日まで地域の皆様に支えられ、創立五十九年目を迎えましたことは、感謝の念に堪えません。また、親子三代に亘り利用いただく方が増えていくことに、地域に根ざした保育園としての誇りを感じるとともに、責任の重さを痛感いたします。昭和から平成へと時代が移り行く中で、地域の発展に伴い、保育園を取り巻く環境が大きく変わってまいりました。保育園に求められるニーズも多様化しております。

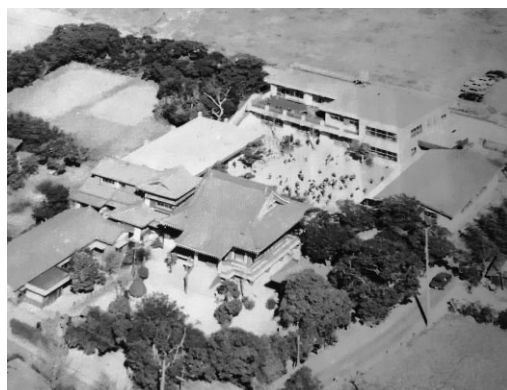
このような中、子ども・子育て支援関連三法が平成二十七年から施行されました。それに伴い、私共萬徳寺保育園は、学校且つ児童福祉施設である「幼保連携型認定こども園」として新たな一歩を踏み出しました。しかしながら、どんなに時代が変化しようとも私たち萬徳寺保育園の果たすべき役割は変わりません。子どもの健やかな成長を願い、援助する。日本古来の親子の繋がり、家族の在り方を大切にし、保護者の皆様には「子育て」の楽しさを体感し

ていただくことを願っています。

創立以来の基本方針である「安全保育」「仏教保育」を基に、地域の皆様の拠り所となる保育園を目指し日々の保育に精進して参ります。



〈現在の園舎〉



〈昭和55年園舎全景〉

子どもたちのために

常総ブロック

社会福祉法人下妻福祉会

法泉寺保育園

園長 土屋 文明

保育園の事務室に書類を収めた古びたロッカーがある。その書類の中に色があくすんだ一枚の文書。「社会福祉法人下妻福祉会設立認可書」と表記されている。日付は昭和四十三年一月十二日。日付の下に記されている当時の厚生大臣の名前は消えて読めないものの、公印の朱色がかすかに残っている。

この認可書のもと、法泉寺保育園は今から四十八年前の昭和四十三年四月一日に開設された。当時、下妻市には下妻市立の保育園が一ヶ所あるのみ。初代園長が下妻市福祉事務所長、保育園長を歴任し退職した。市役所に勤務していた当時から保育園の必要性を感じていたためである。また、当時の市長からも開設の要請があったとのこと。そして、法泉寺の境内地を利用し、定員六十名でスタートした。その当時、境内地の周囲は畑と田んぼ。境内地も茶畑と樹木でおおわれていた。六十名の定員は瞬く間にいっぱいになり、増

築を重ねながら、現在の姿となった。昭和四十五年には定員九十名、昭和四十七年には定員百二十名、昭和四十八年には定員百八十名、昭和五十三年には定員二百名、その後二百二十名、二百五十名と定員増して現在に至っている。

開設当初から送迎用のバスは出さず、毎日、保護者には保育園に顔をだしてもらおう。毎日、親子共ども、みんなと挨拶しよう、そして木々に囲まれた保育園をめざし、周りには多くの樹木が残してある。その中で園庭に植えてあった柿の木は、ゆうに五十センチを超え数多くの子どもたちを見守ってきた。春にはまばゆい程の新緑となり、夏には子どもたちに日陰をつくり、秋には色づいた実をつけ、冬には小鳥達の休憩所になる。春夏秋冬、子どもたちの憩いの場であり、命の営みを教えてくれている。

ここまで保育園が大きくなったのも国、県、市の行政の方々の親身な御支援、数多くの保護者の方々の御協力、すべての職員の誠実で献身的な働きと優しさ、そして最後に「己を忘れて他を利する」の心を持つ天台宗の精神。みんなが一致して「子どもたちのために」を合言葉にこれからも保育園に関係する大勢の方々と一緒に進んで行きたいと思う。



〈茶畑を通して散歩の帰り道〉



〈開園当初の園舎風景〉

花のおさなひ

保育士の原点とも言える保育士賛歌
「花のおさなひ」
歌詞の一つ一つを大切にしながら
みんなで歌い続けていきましょう。

花のおさなひ

桜井鱗子 作詞
大中寅二 作曲

- 一、あけぼのの光にもえて
咲きいずる花のおさなひ
あたらしきのぞみのめばえ
はぐくむほこり
おおこのよろこび
- 二、ももくさのふたばのびて
とりどりに花のおさなひ
たのもしきおくにのちから
つちかうほこり
おおこのよろこび
- 三、あおぞらの光はうらら
よにひらく花のおさなひ
手つなぎのたのしきつどい
みちびくほこり
おおこのよろこび

新設保育園紹介

よろしくおねがいしま～す

取手ブロック

社会福祉法人山ゆり会

まつやま松並保育園

園長 北島 未来

まつやま松並保育園は、平成二十八年四月に社会福祉法人山ゆり会の四つ目の保育園として県南にある守谷市に開園致しました。

守谷市は、利根川、鬼怒川、小貝川の三つの河川に囲まれた緑豊かな土地で、つくばエクスプレスの開通により首都圏に直結しており住環境にも恵まれた街です。

本園は〇歳児から二歳児までの定員十九名の小規模保育園で、守谷駅近隣のマンションの一階に併設しています。

「健康でたくましい子・人を思いやることのできる子・自分で考え行動できる子」という保育目標のもと、外遊び中心の保育を行っており、園庭はありませんが、午前中・夕方と天気の良い日は散歩にでかけ思いっきり体を動かし遊んでいます。また、二歳児は園バスに乗って十分程の所にある姉妹園まつやま保育園に遊びに行き、泥んこ、水遊び等山ゆり会ならではのダイナミックな遊びも楽しんでいます。

小規模保育園ということで、園児

数が少なく家庭的な雰囲気の中、保育を行なえるのも魅力の一つかと思っています。人数が少ないからこそ子どもたち一人ひとりにより一層目を向けることができ、それぞれに合わせた保育が行えるよう心掛けています。とはいえ、マンション内の施設という部分での難しさもあり、今の課題は子どもたちが遊びこめる環境設定を作る事で試行錯誤の日々を送っています。



〈絵本コーナー〉

山ゆり会では、毎年その年に力を入れる事として、保育テーマ・職員テーマを設けます。本園の今年のテーマは「和・輪」です。四月からスタートする新設園ということで、子どもたち、保護者、そして園で働く私たち保育士が互いを思いやり、大きな家族のような温かみのある関係を築いてきたいと考え決めました。また、マンションの入居者や地域住民が参加できるイベントの企画・運営・育児相談などを通して地

域の子育て世帯をサポートし、継続的に地域に貢献していき園を軸に大きな輪を築いていきたいと思っています。

法人理念である「子どものパラダイスめざして」職員一同、同じ方向をみて保育にあたっていきたいと思っています。



〈工夫された保育フロアー〉

水戸ブロック

元吉田さくら保育園

園長 佐藤 聖悟

元吉田さくら保育園は、平成二十八年三月に社会福祉法人聖愛会の六つ目の施設として、水戸市元吉田町に開園致しました。

当園のある元吉田町周辺は、茨城県庁も近く、商業施設や新興住宅が建ち並ぶ水戸市の中心部であり、今

後更に発展していく地域となっております。

国道五〇号線を茨城町方面に向かい進んでいくと、閑静な住宅街の中にさくらの花をイメージした洋風でモダンな外観の園舎が一際目を引きます。芝生の中庭を囲む「ロ」の字型の設計となっており、遊戯室は二重窓の防音設備を完備しております。各保育室・遊戯室は床・腰壁ともに木材を多く使用しており、木の香りや温もりが日々感じられる施設です。

三月の開園時は四十四名だった園児も、四月には定員の九十名でスタートすることができました。園内も賑やかな子どもたちの声が響きわたり、活気に満ち溢れている今日この頃です。

当園では、「知・情・体」の調和のとれた保育・教育環境を整え、最も適切な経験を与え、活発な活動を展開しています。

生きていくために必要な「生きる力」をしっかりと身に付け、心身共にたくましく育ってほしいと願っています。

開園して半年足らずであり、まだまだこれからではありますが、毎日の積み重ね、努力がしっかりとした土台を築き上げていくものと信じ、日々精進していきたいと思っています。

若く経験の浅い職員も多く、課題が多いのも現状ですが、子ども、保護者、保育者が、共に育ち合い成長できるとような保育園を目指していきたいと思っています。

今後とも宜しくお願い致します。



〈広々とした中庭〉



〈モダンな園舎〉

水戸ブロック

社会福祉法人 すずらん保育園

園長 大川 景子

社会福祉法人北友会すずらん保育

園は、国道六号線沿いの水戸市浜田町に位置し、どの方向へ行くにも大変便利です。

平成二十七年五月一日より定員九十名・園児三十九名で開始し、五月三十一日には、落成式を行いました。子どもの主体性を育てながら、保護者や地域社会と力を合わせ、子どもの福祉を積極的に増進し、地域における家族援助を行いながら、職員は豊かな愛情を持って接し、知識の修得と技術の向上に努めています。

すずらん保育園の運営規程第一章総則（理念）に、『すずらんの花言葉が「幸福の再来」であるように、いつしか人生を振り返った時に、この場所が「人生の出発点」で良かったなど、思っていただけ「心の拠所」であり続けたい」とあるように、園児一人ひとりの成長と幸せを願い、開園しました。現在は、八十七名の園児と職員も増えて、年間二百六十日の保育を展開しているところ です。

豊かな集団生活を通して、心身共にたくましく思いやりのある子を育てるといふ保育目標のもと、『明るく元気な子、誰とでも仲良く遊べる子、親切で思いやりのある子』をめざす園児像として、乳幼児達も元気いっぱい、保育園での園生活を送っています。なお、この七月二十日

には、母体の渡里すずらん苑で年長組の園児十三名がたくさんの高齢者の方々と交流をしました。高齢者の方々は、椅子や車椅子に座り、園児が元気よく歌を歌ったり大きなかぶの劇を行ったりすると、拍手をして笑顔になり雰囲気が変わりました。全員で楽しい時間を過ごすことができて、園児たちがこの一年で立派になったと感じられました。これから、一層幼児教育に力を入れて、毎年の保育活動を工夫しながら実践をし、この成果を今後の本園教育の充実発展に生かすように努力をして参りたいと考えています。

各園の皆様には、今後共本園教育の推進のため、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



〈お気に入りの遊具でご機嫌〉



みんなの広場

「自然の中で 培われるもの」

県西ブロック

社会福祉法人 慈光学園

さしま保育園

園長 板垣 利恵子

さしま保育園は、今年度五十周年を迎えた坂東市（旧猿島地区）にある定員九十名の保育園です。五歳児は法人の母体であるお寺（万蔵院）で毎週水曜日に行なわれる礼拝に参加し般若心経を唱えてきます。その後、広大な施設内を散策し、約二キロメートルの道のりを歩いて帰ってきます。礼拝に参加した保護者からは「普段の様子と違いきちんと正座して手を合わせる子どもの姿に感動した」との意見も頂いています。

保育園は自然環境豊かな敷地の中にたくさんのお木々（ハナミズキ、ヤマボウシ、はくもくてん、ももこくなど）があり、子ども達は自分で登れる木を見つけたくましく登っています。日頃から体をたくさん動かして遊ぶことで自然に体力と遊びのコツを掴むことができるでしょう。広い畑にはジャガイモ、さつまい



〈木登り大好き〉

も、スイカが育ち他に四歳児、五歳児が自分達で季節の野菜を栽培し収穫した物は、自分達でクッキングをします。嫌いだだった野菜も自分で育てたことで食べられる様になりました。作る楽しさや大変さを感じ、食べ物に対する感謝の気持ちが育ちます。食べる意欲は生きる力に繋がります。食事は楽しく心をかけています。

子ども達は泥んこが大好きです。園庭に小さな水溜りができると、いつの間にか仲間が集まり（大きい子ども小さい子も）一緒になってどろどろ、ピチャピチャ。川ができ自分が魚になったかの様に泳ぎだし、まるで泥んこプールです。そんな泥んこ遊びの極め付けが田植えをする前の代掻きです。五歳児が自分達の手と体を使い全身泥んこになって土を柔らかくしてくれます。そして、子ども達が田植えをします。毎日子ども達は田んぼにおたまじゃくしやかえ



〈おいしいお米できるかな〉



〈泥んこきもちいい〉

る、みずすましなどいろいろな虫を見つけに来ます。
泥んこ遊びや畑での野菜作りを通して土に親しみ、やさしい心といのちを大切にする気持ちを身につけてもらいたいと願い、日々保育に取り組んでいます。

「明るい保育を目指して」

ひたちなかブロック

社会福祉法人

海の子保育園

園長 大野 裕子

海の子保育園は、公立の民営化を受けて、七年目に入りました。

海の子保育園は名前の通り、海のすぐ近くにありますが、阿字ヶ浦海岸まで、子ども達と歩くと、約十分位です。「津波は大丈夫ですか？」と聞かれるのですが、保育園自体は、海抜二十五メートルの所にあるので、あまり心配はいりません。時々、海へ散歩に行った時などは、大きな坂道を通るので、保育園に戻る時は、「津波が来たよー！逃げるよー！」と声を掛け、みんなで一斉にワージと坂をかけ上がる訓練をしています。子ども達はドキドキ程度ですが、職員はドクンドクン、ゼーゼーと、少し危ない感じになります。

今年度より、年少／年長の合同ランチを設けました。異年齢児の子ども達がお互いに向かい合って食事をします。子ども達は初めは戸惑いと恥ずかしさがあった様子でしたが、徐々に年長さんが下の子ども達の様子を見て声を掛けたりする姿が見られる

ようになってきました。年少さんの上の子達に聞いたり、一緒に食事をしながら話を聞いている姿が、ほほえましく見えます。苦手な物も、誰から言われることなく、少しずつ食べるようになり好き嫌いのある子ども目立つことがなくなりました。残食もほとんどなく、調理担当の職員も喜んでいきます。

また、当園では保育はチームを作っていると思います。チームは五つに分かれ、一つは、エコチームです。エコチームは、食育に係わる仕事になります。野菜を子ども達と育て、収穫をし、調理をし食べます。虫等を飼育し、観察したり子ども達が自然に興味を持てるように環境を作ります。

二つ目のチームは、トイズチームといえます。トイズチームは、子ども達の発達を見ながら、玩具を作ったり、絵本、紙芝居、玩具を選んで購入します。

三つ目のチームは、デコレーションチームです。保育室の環境作り、運動会、発表会等の飾りつけなどを行います。

四つ目のチームは、スポーツチームです。運動具、遊具の点検、子ども達が体をたくさん動かせるように、園庭の環境作り、提案をしています。

五つ目のチームは、ミュージックチームです。毎月の歌を決め、エイサー太鼓、メロディオンの指導、運動会、給食の時間のBGMを決めています。

その他に、各行事の担当の係があるのですが、なるべく職員個人の負担にならず、職員全員が子ども達と行事が楽しめるよう、そのため、職員同士、共通理解をもって保育に臨んでほしいという思いで、「チーム」を作りました。一人ひとりの得意分野を生かして仕事をし、自信を持って子ども達と毎日過ごしてほしいと願っています。

当園の行事は、例年通りに行うという事はありません。その年その年に合わせて、チームで話し合い、やり方などを変えていきます。良かったことは、取り入れていき、反省すべき事は、やり方を変えてみるなど、工夫しています。

また、近くにありますが公立の幼稚園とも交流保育を行なっています。幼稚園の先生方も、子ども達に対する思いは同じなのだと、思います。また、お互いに工夫してある所など刺激になり、とても勉強になります。年長さんは、小学校にあがると、顔なじみの子がいるため、楽しく登校できているようです。

ひたちなか市の湊方面は、五年後

に小中一貫校となり、小中学校五校が統合されます。その時の為にも、色々な人と触れ合い、コミュニケーションが取れるように、また、地域の方々に見守られるよう、幼稚園、小学校だけではなく、地域交流をたくさん図っていききたいと思っています。



〈交流会〉



〈夏まつり〉

特 例 制 度 を 利 用 し て

幼稚園教諭免許状の取得

を目指す保育士のみなさまへ

取得条件

基礎資格	一種	学士の学位を有し、かつ保育士資格を有すること。
	二種	保育士資格を有すること。(高等学校を卒業していない場合は、免許状を取得できません。)
勤務経験		保育所等の施設で3年以上、かつ 4,320 時間以上の勤務経験を有すること。
必要単位		教職に関する科目のうち、所定の科目を8単位以上修得すること。(放送大学で8単位修得可能)

放送大学では、年間2回、4月と10月の新入学生を募集しています。半年で8単位を修得するなら51,000円、1年かけても53,000円で幼稚園教諭免許状を取得できます。詳細をお知りになりたい方、まずは放送大学茨城学習センターにご連絡ください。入学手続き、履修の方法、免許状取得までの流れ等、入学から修了にいたるまでの疑問にお答えする個別相談会を開いております。

関連 URL <http://www.ouj.ac.jp/lp/lp22/>

放送大学では幼稚園教諭免許の更新もできます

放送大学では、教員免許更新のための講座を開講(1年に2期)しております。通信制なので通学することなくインターネットやテレビ・ラジオで受講し、学習センターで受験します。合格すれば修了証明書が発行されますので、県教育委員会に更新申請し完了です。

講座の内訳は、必修領域「教育の最新事情」6時間、選択必修領域6時間、選択領域18時間。計30時間の受講で試験を受けることができます。開講科目(必修領域を除く)は次の通り。「教育政策と学校の組織的対応」・「スクールカウンセリング」・「情報社会に対応した学校教育」・「学校経営」・「現代の生徒指導」・「小学校外国語活動(英語活動)概論」・「環境教育の実践」 各科目とも6時間受講
詳細をお知りになりたい方はお問合せください。



【連絡先】 〒310-0056 水戸市文京 2-1-1 (茨城大学構内)

電話：029-228-0683、Fax：029-228-0685

スキルアップスポーツクラブ

運動嫌いにさせるな

-これが我が社の指導方針である-



正課体操指導

私共は社員ひとりひとりの持つ「能力」「個性」を最大限に発揮し、その力をひとつに幼児教育(体育)に取り組んでいます。「子供達と同じ目の高さ」で「子供達と共に成長」していく私達は誠心誠意、園の要望にあった「健康・体育」に実直にお答えします。

保育士向け研修会 親子体操、未就園児体操、出張研修会など

「会場が遠い」「内容が合わない」「予算が…」などの理由で研修会を諦めてはいませんか？当社ではそのような悩みを一発で解決できる出張研修会を行っています。出張研修会では、希望の日時で実施でき、内容も相談できるので、貴園様の望む研修会になると思います。是非、貴園様だけの研修会を行ってみてはいかがでしょうか。

その他、運動に関する事、何でもご相談下さい。お待ちしております。



(株)総合体育研究所茨城
ースキルアップスポーツクラブー
0299-35-5123(代)

〒315-0001 茨城県石岡市石岡2-1-10
三和開発ビル2F
<http://www.soutaiibaraki.co.jp/>



茨城の子供たちの未来のために、
茨城の保育者と親御さんのために、
そして、地域の発展のために、
茨城ひかりのくにには、貢献いたします。

月刊絵本・幼児教材・園児服・保育用品・公園遊器具・視聴覚機具・給食用無添加食品・園児総合保険

株式会社 茨城ひかりのくに

茨城県水戸市千波町 1286-7 〒310-0851
TEL. 029-241-6600(代) FAX. 029-243-0664
E-mail: otegami@hikarinokuni.com

園と親を結ぶコミュニケーション情報サイト

いばらき子育てネット

www.hikarinokuni.com/

編集後記

平成28年度、それぞれの地域で様々な活動が実施されています。

保育という仕事が重要視されている中で、「人と人がつながる喜び」「子どもと子どもの輪がつながる大切さ」などを色々な角度からお伝え出来ればと想っております。

様々な場所から、たくさんの子どもの笑顔が飛び交う事を願っております。

今後とも、保育通信を宜しくお願い致します。

(M. T)

この保育通信は、共同募金分配金をうけて作成しています。

毎号、綴込んで保存してください。

各職員に回覧してください。